

スキー、スノーボード部 存続へ

廃部議案を否決

26年度生徒総会

26年度生徒総会が22日、体育館で行われ、今年度の生徒会活動の基本方針を決定した。総会では、生徒会本部方針や各委員会活動計画、26年度予算案、書記・会計の役員数を8から6に変更する会則改正案を審議しいずれも可決。加えてスキー・スノーボード部の廃部議案を審議したが否決され、スキー・スノーボード部は存続する見込みとなった。



どうしたら全校生徒が楽しめる西高祭になるか答弁する小山西実委員長(右奥)

重要案件も多数決定!

生徒総会で出された各委員会活動方針案は、多数の意見や質問が出されたが可決された。西高祭実行委員会による、文化祭準備期間を早めるなどの新しい取り組みもある。校風委員会はマスコットキャラクター作成、図書委員会は季節ごとのイベントにも力をいれていく。

1年生から存続の願い

存続についての採決の際、2名から反対の声があがった。1年2組大塚匠さん(芦原)と1年1組川田佑香さん(上田五)だ。大塚さんはアルペンの選手だが、部員が少ないため東信のスキー部のある高校で構成される「東信スキーチーム」に加入。東信スキーチームはスキーをやりたい生徒が活動しやすい環境をつくるため、高体連スキー専門部によって運営されている。大塚さんは「チームには入ることができたが、



「学校への要望」に丁寧に回答する江並会長

マスコットキャラクター作成についてはその意義を問われたが、3年4組安田景香校風委員長(芦原)は、「地域の人たちへ西高を知ってもらうために作成したい」と話した。生徒会活動への意見に加え、学校への要望も寄せられた。昼休みを4限終了後

高校で部活動として活動したい」と存続への思いを話した。また「1、2年生では厳しいかもしれないが、3年生でのインターハイ出場が目標」と話した。川田さんはモーグルで県の強化選手。昨年、全日本の大会に出場するなどの実力だ。「スキー部に入学し、シーズン以外の時期も部活動としてトレーニングに励みたい」と語った。モーグルは高体連の種目になく、川田さんはすでに校外のスキーチームには所属していないという。そのため活動場所はあまるもの、西高スキー部という形で大会に臨み、来年も全日本の大会への出場を目指したいという。

全校が拍手応援に感動

渡邊善和教頭先生は2名の反対意見に対し「1年生の2名のスキー・スノーボード部の存続に対する熱い思いが伝わった」と話し、活動については学校側でもサポートしていく意向を示した。また、西高では過去に部

物足りなさも成長に期待を

生徒会係主任の西野純先生は今回の生徒総会を「1年生の意見も多く活発な会になった。スキー部の議案では1年生の2人の投げか

に戻して欲しいという意見については、現在一部から寄せられているが、これが全校の意見であるか見極めると生徒会長が答弁。アンケートを行い、全校の意見であると認められるようならば、生徒会として学校にお願いしていくか検討したいとした。

毎年多くの意見や質問が出されるが、今年は1年生から多く出され、昨年に比べ一層活発な生徒総会となった。(飯高)

活動に入部せず高体連の大会に参加し、好成績を残すなどの活躍もある。その際には担当が引率をするなどの措置がとられていたという。部としての活動には、顧問や施設などの問題もある。しかし、仮に部活動に入部していなかったとしても活動ができる環境をつくっていくことはできるとおっしゃった。

渡邊教頭先生はスキー・スノーボード部の存続意見に対し「全校が拍手で応援を示した姿に感動した。部活に入っていない人も頑張っている人も応援して欲しい」と話してくれた。(飯高)

けで全校がひとつになった」と話し、生徒会主催の行事が多いがまだ完璧にはいかないことが多く、物足りなさを感じるという。これから生徒会でもとまりを深め、生徒会を通じ全校のまとまりにつながってほしいと期待を口にした。(飯高)